

# 吹田市立図書館 市民ワークショップ 開催報告

## 開催趣旨

吹田市立図書館サービス基本計画の策定に向けて、これからの図書館サービスへの多様な市民ニーズを把握すること、また市民の意見やアイデアを積極的に取り入れるため、令和4年（2022年）7月・8月に市民ワークショップを開催しました。

## 概要

[参加者] 20代～80代の吹田市在住・在学・在勤者

[講師] 大阪大学大学院工学研究科環境エネルギー工学専攻 准教授 若本 和仁さん

[開催日時・場所・参加人数]

第1回：令和4年7月30日（土）午前10時30分～12時30分

中央図書館 集会室

参加者数：12名（4グループ）

第2回：令和4年8月19日（金）午後6時30分～8時30分

千里市民センター多目的ルーム（千里ニュータウンプラザ8階）

参加者数：10名（3グループ）

## テーマ

「図書館を利用する人も、  
ほとんど利用しない人も、もっと使いたくなる図書館。」

（第1回目と2回目もテーマは同じ。）



## ワークショップの方法

普段、図書館を利用しない層※が「図書館に行きたくなる」アイデアを「アイデアシート」に書き出し、グループ内でアドバイスや意見を出し合いました。その後、グループでイチ押しのアイデアを発表し、みんなで投票を行いました。

※仮想対象として、A:YA(中学生)世代、B:読書に興味がない層、C:読書はするが図書館を利用していない層の3つを提示しました。

## 当日タイムスケジュール

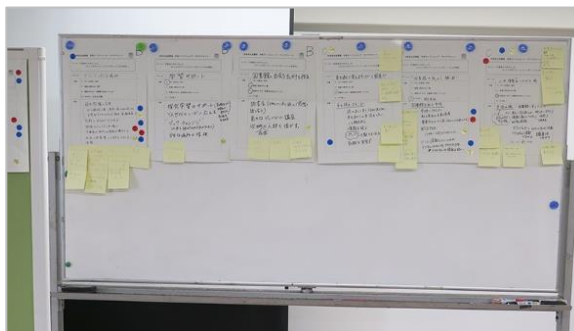
開会あいさつ(事務局・中央図書館長より)	5分
ワークショップの心得(講師より)	5分
ワークショップ	
・自己紹介(市内のおすすめスポット)	60分
・ワーキング	
・発表(1グループ2~3分)	15分
・投票(質疑応答)	15分
・投票結果発表	5分
全体のまとめ・講評(講師より)	10分
閉会・アンケート記入	5分

## アイデアシート

吹田市立図書館 市民ワークショップ アイデアシート	
テーマ:「図書館を利用する人も、ほとんど利用しない人も、もっと使いたくなる図書館。」	
タイトル	
対象	ア. YA(中学生)世代 イ. 読書に興味がない層 ウ. 読書はするが、図書館を利用していない エ. その他( )
内容	

## 投票用シール

- トップ賞(ゴールド)
- ユーモア賞(ブルー)
- ピカッとアイデア賞(レッド) \*第1回目のみ



# 第1回 ワークショップの記録

アイデアの種類:



PR・広報・情報発信



居場所・滞在型



イベント・企画運営・その他

## 図書館はもっと情報発信を!

【対象】B・C

【課題】

・利用が無料だったり、ネット予約ができるなど、基本的なことを知らない人が多い。司書の仕事についてもPRが必要。

【提案内容】

- ・市報、SNSで情報発信する。
- ・市内の各種イベントに出かけてPRする。

## 図書館サービスのPR

【対象】すべて

【提案内容】

- ・あらゆるところでPRをする。
- ・学校にポスター、転入者向けには不動産屋、電車などのつり革(ポスターとしても目に入る)など。図書館から離れたところでもPRをする。

## 学校で子供たちにPR

【対象】A・B

【提案内容】

- ・教育の現場(学校図書館)で子供たちに図書館使い方講座を開いて、子供のうちから図書館に親しみを持ってもらう。
- ・学校が児童に配布しているタブレットのデスクトップに図書館の使い方動画を入れる。

## 市内外の情報施設の連携を

【対象】すべて

【提案内容】

- ・市内の大学や文化芸術施設など知の拠点がたくさんあるので、情報を連携して使いやすくしていく。

## 人や情報とつながる場所

【対象】C

【提案内容】

- ・職員と市民のふれあいがある図書館。
- ・市民ボランティア活動の場。
- ・市民の憩いの場。
- ・図鑑や図録を展示し、興味をもってもらう。
- ・地域情報に力を入れる。(地図や行政情報。)

## オアシスのような場所

【対象】すべて

【提案内容】

- ・館内設備の充実。水分補給の場、清潔、座り心地の良いイスを用意するなど。
- ・気軽にアクセスできる環境が大事。(駅近、利用料の安い駐車など。)

【期待される効果】

- ・気軽におしゃべりできる。
- ・相談などの敷居が低くなる。

## 誰にでも使いやすい空間づくり

【対象】B

【提案内容】

- ・ビジネスパーソン向けのコワーキングスペース。
- ・個人のプライベート空間や静かな環境。
- ・居心地のよい空間。

## 図書館と出会うきっかけを作る

【対象】B・C

【提案内容】

- ・色々なジャンルの講座を開催する。
- ・吹田市在住の人材を活かす。

## もっと手話に親しみを

【対象】すべて

【提案内容】

- ・聴覚障がい者が利用しやすくなるように手話のできる職員を配置する。手話講座の開催。
- ・棚の分類を数字や文字だけでなく絵で表現する。

## 本を通じて得るよろこびを発見!!

【対象】C

【提案内容】

- ・本を通じての交流。
- ・読書会。  
(ひとつの本を読んで感想を語り合う。)



## 学習サポート

【対象】A

【提案内容】

- ・探求学習のサポート(高校生が中学生に教えるなどして交流も生まれる。)
- ・学習場所の提供。
- ・ブックチャレンジやブッククラブなど、本を紹介する場や本と触れ合う機会や場所を定期的に設ける。

## 投票結果

- トップ賞 …図書館サービスのPR(2票)、オアシスのような場所(2票)、学校で子供たちにPR(2票)
- ユーモア賞…オアシスのような場所(4票)
- ピカッとアイデア賞…図書館はもっと情報発信を(4票)

# 第2回 ワークショップの記録

アイデアの種類:  PR・広報・情報発信  居場所・滞在型  イベント・企画運営・その他

## 目立つPR作戦

【対象】すべて

【課題】

- ・図書館のサービスが十分に知られていない。
- ・図書館に入りづらい、PR不足。

【提案内容】

- ・大げさな目立つポスターを貼る。
- ・「図書館名とQRコード」のみを表示。
- ・掲示場所は、返却ポスト前、エレベーター前、駅など。

## 図書館の魅力発信

【対象】C

【課題】

- ・図書館の基本情報（利用が無料、司書の魅力）が伝わっていない。充実した資料の素晴らしさも伝えたい。

【提案内容】

- ・図書館の基本情報のPR。
- ・カウンターには司書が常駐。話かけやすい雰囲気づくりをする。
- ・様々なイベントの情報発信や講演会を開催する。

## 利用案内・レファレンス等の広報

【対象】すべて

【提案内容】

- ・レファレンスサービスはとても良いのに、知られていないのが残念。PRに力を入れる。
- ・予約や取り寄せが可能など基本的な使い方を知らせる。
- ・WEB登録が可能などを知らせる。
- ・資料の検索をもっとわかりやすくする。

## 利用者のゾーン分け

【対象】すべて

【提案内容】

- ・図書館に対する多様なニーズに対応する。
- ・子どもが多少騒いでもよい空間づくり。
- ・お茶しながら、本を読んだりできる場所。
- ・サイレントルームを作って、静かな空間を確保する。

## 若者の居場所づくり

【対象】A

【課題】

- ・若者の利用が少ない。

【提案内容】

- ・自習室、みんなでワイワイ出来る場所をつくる。
- ・小学生、中学生もやってきて、自由に集まれる雰囲気のスペースが必要。
- ・子供の遊べる場所を用意する。

## イベント(読書会など)

【対象】すべて

【提案内容】

- ・様々なジャンル・年齢層を対象にしたイベントを開く。
- ・「本」をテーマに中高生がイベントを企画する。
- ・大学の先生、地域の方などを講師にした講座を開催する。



## 楽しい催し&イベントの開催

【対象】B・C

【課題】

・図書館の魅力の不足。また行きたいと思えるような、楽しいという体験が必要。

【提案内容】

- ・「食」と本のカフェを併設する。
- ・本のバザールを開催する。

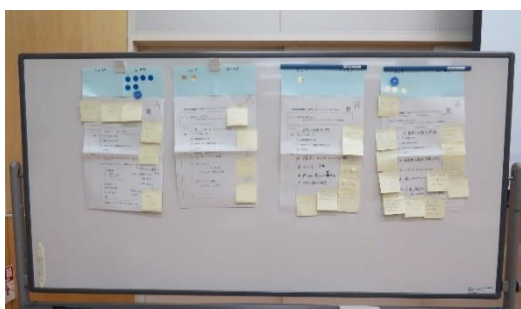


## おすすめ本の紹介

【対象】すべて

【提案内容】

- ・「読んでよかったよ」コーナーの設置。レビューを市民・司書・中高生などが書いて紹介する。SNSでも公開する。
- ・悩みごとを解決するような本の紹介。
- ・小中学校の図書委員が薦める本。
- ・YA世代向け読書会。



## 投票結果

- トップ賞 …おすすめ本の紹介(2票)、図書館の魅力発信(2票)、
- ユーモア賞…目立つPR作戦(6票)

## 参加者の感想

- ・ワークショップということで敷居の高い気がしていたが、知人に誘われ参加した。色々な意見が聞けて良かった。
- ・他年代の方の話を聞けてよかった。
- ・図書館に向き合ういいきっかけになった。市の施設なので、さらに幅広い層が利用できる場となっていけばよいと思う。
- ・図書館への愛にあふれる方と交流できたのが良かった。
- ・話しやすい雰囲気、いろんな意見をまとめられてよかった。意見を実際に1つからでもとり入れてほしい。
- ・初対面の人と図書館について話ができ、司書の方々と一緒に同じ方向に向けて話し合いも出来た事がとても良かった。
- ・どの程度の規模でのアイデアを出せばいいか迷ったので、もう少しテーマが定まっていたらもっと話しやすく意見が出しやすかったかなと思った。
- ・ワークショップが図書館で行われる意図はわからないが、今後活かしてほしい。
- ・これからもみんなといっしょに考えていきたい。そしてその後の事が大切だと思う。
- ・みんな図書館に関心はあるので「きっかけ」と「しかけ」が大事。吹田の図書館を愛する人として、これからもこのような催しがあればいいと思う。

## ワークショップを終えて(まとめ)

今回のようなワークショップの開催は吹田市立図書館でも初めての試みでした。参加者は図書館利用者だけでなく、図書館でボランティア活動をしている方や、学校図書館の読書活動支援員、普段あまり図書館を使っていない方など様々で、それぞれの知見や経験から、色々なアイデアや意見をいただきました。

第1回・第2回通じて多く出た意見として、図書館サービスが広く一般に知られていないのではないか、ということが挙げられます。ワーキング中にも、参加者が知らないサービスがいくつもあることが判明し、図書館側の広報やPR不足を痛感しました。そのほか利便性や居心地の良い図書館が求められていることは、市民アンケート等でも感じていましたが、ワークショップではそれに加えて、図書館本来の魅力を活かした活動、本に関する情報の提供や、読書会のように本を通じた交流の場、また図書館司書に気軽に相談できる環境等が求められていることも実感しました。

今回グループ内の進行をつとめるファシリテーターという役割を、図書館職員が担当しました。普段とは違った形で市民の方々と交流を持つことができ、非常に実りのある時間となりました。今後もこのような機会を設けていきたいと考えています。そして頂いた御意見やアイデアを、これからのサービスに活かしていけるよう職員一同、努力していきたいと思っております。

ご参加ありがとうございました。

